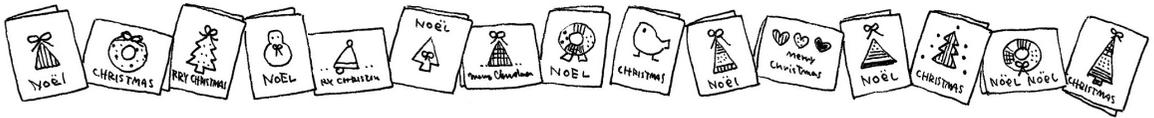


+1(プラスワン)



「異常があっても」

牧師 横山順一

阪急で梅田に出る時を筆頭に、私はしばしば先頭車両に乗ることが多い。それも運転席の後ろだ。単純に見通しが良いのと、座れる確率が高いからだ。

が、それだけでなく、時々新人運転士の訓練を見ることができるともある。

先日、久しぶりにそのチャンスに恵まれた。今回は女性だった。西宮北口から指導員と共に運転席に入った彼女は、幾つもある運転席回りの上から下までの機器をチェックする。

チェックする度に「よし！」と大きな声を発する。応える指導員のそれは小さく静かだ。

余りにも大声の「よし！」に、居眠りをしていた乗客が、驚いて目を覚ましたりもする。でも概ね、好意的でほっとした。と言うのは、時には「うるさい！」と腹を立てる人がいるらしい。

何度も操縦かんを握って、感触を確かめているので、てっきり彼

女が運転するものと思っていたら、指導員と交代した。

ぎこちなかった彼女と比べ、さすがにベテランの動きはよどみない。すべてがスムーズである。

彼女は運転席横に直立不動で、指差し確認をしながら、再び「よし！」を繰り返した。

電鉄に入社したからといって、すぐ運転士になれるのではない。経験を積み、段階を踏んでからだから新人と言っても、もうそれなりの年齢のはずだ。

にも関わらず、きびきびした言動は、指導員がおり、合格するための定められた手順通りとは言え、実に初々しくて気持ちが良い。

思わず、我が新米牧師時代を振り返る。自分はあるなにきびきびしていただろうか。自分も初々しく見えたのだろうか・・・。

多分そうではなかったろう。偉そうな新人だった可能性が高い。今更だが、恥じ入ることしきり。そんなことをつらつら思いめぐらせているうちに、発車時刻となった。

彼女は発声した。
「異常なし、出発進行！」

誠にすがすがしい。あれこれのチェックを目だけでなく、口にも出し、指さして確認した上での異常なしであり、出発進行である。異常なし、と言われて出発できることの信頼感は大きい。安心して委ねられる気がする。

この新人訓練は、阪急だけでなく、各社で実施している。慣れたら、いちいち口に発することは無いのだが、くれぐれも新人時代を忘れぬようにと、自分を柵に上げて祈った。

さて、アドヴェント。そしてクリスマスがやって来る。クリスマス礼拝で受洗する友がある。どこかの教会でも、クリスマス礼拝受洗者が多い。

新人信徒としての新たな出発だ。これはまさしく「出発信仰！」であるのだが、「異常なし」とは限らない。

健康が守られ、生活は安定し、心も落ち着いた時、信仰が守られるのではない。むしろいつもなにがしかの異常を抱え、それでも神さまに守られていることを信じて歩むのが信仰生活だ。異常があっても大丈夫。